

2025年度 一橋大学 前期 数学

1

(1) $2025 = 3^4 \cdot 5^2$ であるから,

$$d(2025) = (4+1)(2+1) = 5 \cdot 3$$

であり,

$$f(2025) = \frac{d(2025)}{\sqrt{2025}} = \frac{5 \cdot 3}{3^2 \cdot 5} = \frac{1}{3}$$

である.

(2) 素数 p , 正の整数 k に対して,

$$f(p^k) = \frac{d(p^k)}{\sqrt{p^k}} = \frac{k+1}{\sqrt{p^k}}, \quad f(p^{k+1}) = \frac{d(p^{k+1})}{\sqrt{p^{k+1}}} = \frac{k+2}{\sqrt{p^{k+1}}}$$

であるから,

$$\begin{aligned} f(p^k) \leq f(p^{k+1}) &\Leftrightarrow \frac{k+1}{\sqrt{p^k}} \leq \frac{k+2}{\sqrt{p^{k+1}}} \\ &\Leftrightarrow \sqrt{p} \leq \frac{k+2}{k+1} \cdots ① \end{aligned}$$

である. p が素数であることより $p \geq 2$ であるから, ①が成り立つならば,

$$\begin{aligned} \sqrt{2} \leq \frac{k+2}{k+1} &\quad \therefore \sqrt{2}(k+1) \leq k+2 \\ \therefore k \leq \frac{2-\sqrt{2}}{\sqrt{2}-1} &= \sqrt{2} \end{aligned}$$

でなければならない. k は正の整数であるから,

$$k=1$$

でなければならず, このとき, ①は,

$$\sqrt{p} \leq \frac{3}{2} \quad \therefore p \leq \frac{9}{4}$$

であるから, これを満たす素数 p は

$$p=2$$

のみである.

以上から,

$$(p, k) = (2, 1)$$

である.

(3) まず, $f(1) = \frac{d(1)}{\sqrt{1}} = \frac{1}{1} = 1$ である. ②

次に, $n \geq 2$ のとき, n の素因数分解を

$$n = p_1^{k_1} p_2^{k_2} p_3^{k_3} \dots$$

(p_1, p_2, p_3, \dots は相異なる素数, k_1, k_2, k_3, \dots は正の整数)

とするとき, $d(n) = (k_1+1)(k_2+1)(k_3+1)\dots$ であるから,

$$\begin{aligned} f(n) &= \frac{(k_1+1)(k_2+1)(k_3+1)\dots}{\sqrt{p_1^{k_1} p_2^{k_2} p_3^{k_3} \dots}} = \frac{k_1+1}{\sqrt{p_1^{k_1}}} \cdot \frac{k_2+1}{\sqrt{p_2^{k_2}}} \cdot \frac{k_3+1}{\sqrt{p_3^{k_3}}} \dots \\ &= f(p_1^{k_1}) f(p_2^{k_2}) f(p_3^{k_3}) \dots \cdots ③ \end{aligned}$$

である.

素数 p に対して, $f(p) = \frac{2}{\sqrt{p}}$ であること, および(2)より,

$$1 < f(2) < f(2^2) > f(2^3) > \dots$$

$$1 < f(3) > f(3^2) > f(3^3) > \dots$$

p が 5 以上の素数であるとき,

$$1 > f(p) > f(p^2) > f(p^3) > \dots$$

したがって、③が最大になるのは、 n の素因数分解が $2^2 \cdot 3$ のときであり、

$$f(2^2 \cdot 3) = \frac{d(2^2 \cdot 3)}{\sqrt{2^2 \cdot 3}} = \frac{(2+1)(1+1)}{2\sqrt{3}} = \sqrt{3}$$

である。…④

②、④より、 $f(n)$ の最大値は $\sqrt{3}$ であり、そのときの n は $2^2 \cdot 3 = 12$ である。

2

(1) O を原点とし, P(2, p)とする.

$$C_1 : x^2 + y^2 = 9 \quad \cdots ①, \quad C_2 : (x - 2)^2 + (y - p)^2 = 1 \quad \cdots ②$$

① - ②より,

$$4x + 2py - p^2 - 12 = 0 \quad \cdots ③$$

である. $\{①, ②\} \Leftrightarrow \{①, ③\}$ より, C_1 と C_2 が共有点を 2 つもつ条件は,

C_1 と直線③が共有点を 2 つもつ

ことである. よって,

$$\begin{aligned} \frac{|-p^2 - 12|}{\sqrt{4^2 + (2p)^2}} < 3 &\Leftrightarrow (p^2 + 12)^2 < 9(4p^2 + 16) \\ &\Leftrightarrow p^2(p^2 - 12) < 0 \\ &\Leftrightarrow 0 < p^2 < 12 \end{aligned}$$

である. 求める P の y 座標 p の範囲は,

$$-2\sqrt{3} < p < 0 \text{ または } 0 < p < 2\sqrt{3} \quad \cdots ④$$

である.

(2) C_1 と C_2 が共有点を通る直線はただ 1 つであるから, l は③である.

C_1 と C_2 の中心間を結ぶ直線 OP は l に垂直であるから, Q は OP 上にある. よって, $\overrightarrow{OQ} = t\overrightarrow{OP}$ を満たす実数 t が存在し Q(x, y) とおくと,

$$x = 2t \quad \cdots ⑤, \quad y = pt \quad \cdots ⑥$$

となる. また, P と Q が l に関して対称であることから, PQ の中点は③上にあり,

$$4 \cdot \frac{2t+2}{2} + 2p \cdot \frac{pt+p}{2} - p^2 - 12 = 0 \quad \therefore (p^2 + 4)t = 8 \quad \cdots ⑦$$

である.

点 Q の軌跡は,

④, ⑤, ⑥, ⑦をすべて満たす実数 p, t が存在するような点(x, y)全体の集合である. ⑦, ⑤より, $x > 0$ であることに注意すると, ⑤, ⑥より,

$$t = \frac{x}{2} \quad \cdots ⑧, \quad p = \frac{2y}{x} \quad \cdots ⑨$$

であるから, ⑧, ⑨を⑦に代入して,

$$\left\{ \left(\frac{2y}{x} \right)^2 + 4 \right\} \frac{x}{2} = 8 \quad \therefore x^2 + y^2 - 4x = 0 \quad \cdots ⑩$$

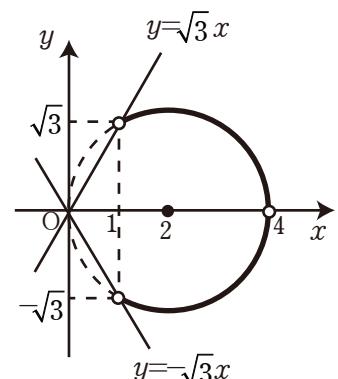
また, ④, すなわち, $0 < |p| < 2\sqrt{3}$ と ⑨より,

$$0 < \left| \frac{2y}{x} \right| < 2\sqrt{3} \quad \cdots ⑪$$

である. 求める軌跡は⑩かつ⑪であり,

$x^2 + y^2 - 4x = 0$ の “ $y \neq 0$ かつ $-\sqrt{3}x < y < \sqrt{3}x$ ” を満たす部分であり, 図の太線部分の円弧である.

ただし, $(1, \pm\sqrt{3})$, $(4, 0)$ は除く.



3

$$6 \int_0^2 |x^2 - a| dx = a^2 - 2a + k \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$$f(x) = x^2 - a, \quad I = \int_0^2 |f(x)| dx \text{ とおくと, } \textcircled{1} \text{ は,}$$

$$6I = a^2 - 2a + k, \quad \text{すなわち, } -a^2 + 2a + 6I = k$$

となる.

①が成り立つ実数 a がちょうど 4 つ存在する条件は, $g(a) = -a^2 + 2a + 6I$ とおくと,
 ay 平面において, 2 つのグラフ $y = g(a)$ と $y = k$ が相異なる 4 個の共有点をもつ
 $\dots\dots (*)$

ことである.

一方,

$$a \leqq 0 \text{ のとき, } 0 \leqq x \leqq 2 \text{ において } f(x) \geqq 0$$

$$0 \leqq a \leqq 4 \text{ のとき, } 0 \leqq x \leqq \sqrt{a} \text{ において } f(x) \leqq 0, \quad \sqrt{a} \leqq x \leqq 2 \text{ において } f(x) \geqq 0$$

$$4 \leqq a \text{ のとき, } 0 \leqq x \leqq 2 \text{ において } f(x) \leqq 0$$

である. $f(x)$ の不定積分の 1 つを $F(x) = \frac{x^3}{3} - ax$ とおく.

(i) $a \leqq 0$ のとき

$$I = \int_0^2 f(x) dx = F(2) - F(0) = \frac{8}{3} - 2a$$

であり,

$$g(a) = -a^2 + 2a + 6 \left(\frac{8}{3} - 2a \right) = -a^2 - 10a + 16 = -(a+5)^2 + 41$$

となる.

(ii) $0 \leqq a \leqq 4$ のとき

$$I = \int_0^{\sqrt{a}} \{-f(x)\} dx + \int_{\sqrt{a}}^2 f(x) dx = F(2) + F(0) - 2F(\sqrt{a}) = \frac{8}{3} - 2a + \frac{4}{3}a\sqrt{a}$$

であり,

$$g(a) = -a^2 + 2a + 6 \left(\frac{8}{3} - 2a + \frac{4}{3}a\sqrt{a} \right) = -a^2 + 8a\sqrt{a} - 10a + 16$$

となる.

ここで, $t = \sqrt{a}$ とおくと,

$$g(a) = -t^4 + 8t^3 - 10t^2 + 16$$

であり, この右辺を $h(t)$ とおき, $0 \leqq t \leqq 2$ における $h(t)$ の増減を調べる.

$$h'(t) = -4t^3 + 24t^2 - 20t = -4t(t-1)(t-5)$$

であるから, 増減は右表のようになる.

したがって, $g(a)$ は,

$0 \leqq a \leqq 1$ において減少, $1 \leqq a \leqq 4$ において増加

であり, 極小値は $g(1) = h(1) = 13$ である.

(iii) $4 \leqq a$ のとき

(i) の過程より,

t	0	...	1	...	2
$h'(t)$		-	0	+	
$h(t)$	16	↘	13	↗	24

$$I = \int_0^2 \{-f(x)\} dx = - \int_0^2 f(x) dx = 2a - \frac{8}{3}$$

であり,

$$g(a) = -a^2 + 2a + 6 \left(2a - \frac{8}{3}\right) = -a^2 + 14a - 16 = -(a-7)^2 + 33$$

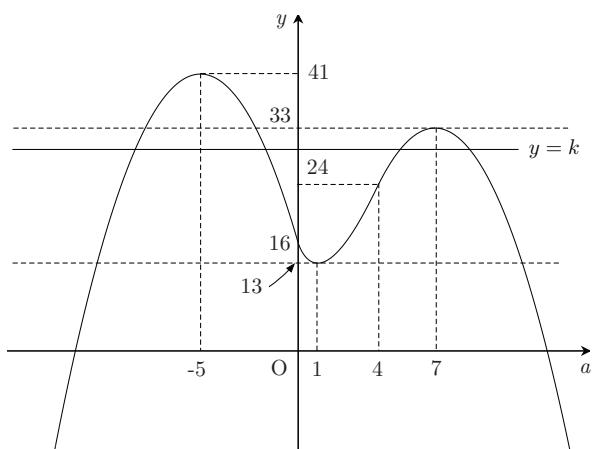
となる.

(i), (ii), (iii)より, $y = g(a)$ の概形は
右図のようになる.

以上, (*)より, 求める実数 k の範囲は,

$$13 < k < 33$$

である.



4

$$\overrightarrow{OQ} = (1-t)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$$
 とおく。

$t = \frac{1}{5}$ のときの Q の位置を E, $t = \frac{3}{5}$ のときの Q の位置を F とおくと,

$$\overrightarrow{OE} = \frac{4}{5}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{5}\overrightarrow{OB} = \frac{4}{5}(0, 3, -5) + \frac{1}{5}(5, -2, 10) = (1, 2, -2)$$

$$\overrightarrow{OF} = \frac{2}{5}\overrightarrow{OA} + \frac{3}{5}\overrightarrow{OB} = \frac{2}{5}(0, 3, -5) + \frac{3}{5}(5, -2, 10) = (3, 0, 4)$$

であり, t が $\frac{1}{5} \leq t \leq \frac{3}{5}$ の範囲を動くとき, Q は線分 EF 上を動く。

$\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OQ}$ であり, $s=0$ のとき P=O, $s>0$ のとき \overrightarrow{OP} は O を中心に \overrightarrow{OQ} を s 倍に相似拡大したものである。

よって, s が $s \geq 0$ を満たして動くとき, P の存在範囲 D は, 半直線 OE, OF を境界とする図の網目部分となる(境界を含む)。

円 C は 2 つの半直線 OE, OF に接するから, その中心 K は $\angle EOF$ の 2 等分線 l 上にある。

l と EF の交点を G とする。 $|\overrightarrow{OE}| = 3$, $|\overrightarrow{OF}| = 5$ より,

$$EG : FG = 3 : 5$$

であるから,

$$\overrightarrow{OG} = \frac{5\overrightarrow{OE} + 3\overrightarrow{OF}}{3+5} = \frac{1}{4}(7, 5, 1)$$

となる。これより, H(7, 5, 1) は l 上にあり,

$$OH = \sqrt{7^2 + 5^2 + 1^2} = 5\sqrt{3} \quad \cdots ①$$

である。

また, $\angle EOH = \angle FOH = \theta$ とおくと,

$$\cos\theta = \frac{\overrightarrow{OE} \cdot \overrightarrow{OH}}{|\overrightarrow{OE}||\overrightarrow{OH}|} = \frac{15}{3 \cdot 5\sqrt{3}} = \frac{1}{\sqrt{3}}$$

$$\sin\theta = \sqrt{1 - \cos^2\theta} = \sqrt{\frac{2}{3}}$$

であるから,

$$OK = \frac{10\sqrt{2}}{\sin\theta} = 10\sqrt{3} \cdots ②$$

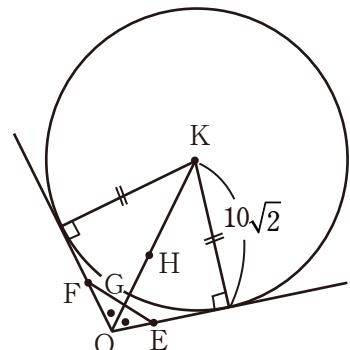
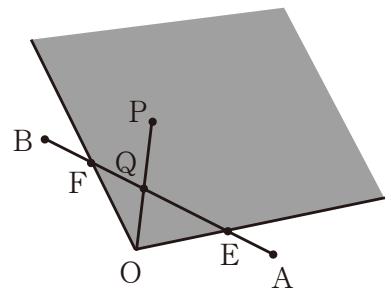
となる。

\overrightarrow{OK} は \overrightarrow{OH} と同じ向きであるから, ①, ②より,

$$\overrightarrow{OK} = 2\overrightarrow{OH} = (14, 10, 2)$$

である。

以上から, C の中心の座標は(14, 10, 2)である。



5

(1) P_n ($n=1, 2, \dots$)の定め方から,

P_n は, n が奇数のとき A, C, D のいずれか, n が偶数のとき B, E のいずれか
…(*)

である。

 P_n が A である確率 a_n を求める。(*)より, n が偶数のとき $a_n = 0$. n が奇数のとき, m を正の整数として $n=2m-1$ とおく。 P_{2m+1} が A となるのは,(i) P_{2m-1} が A であり, このとき P_{2m} は B であり, 次に線分 AB を選ぶ。(ii) P_{2m-1} が C であり, 線分 CB を選び (このとき P_{2m} は B), 次に線分 BA を選ぶ。(iii) P_{2m-1} が D であり, 線分 DB を選び (このとき P_{2m} は B), 次に線分 BA を選ぶ。のいずれかの場合である。 P_{2m-1} が C, D である確率をそれぞれ c_{2m-1} , d_{2m-1} とおくと, (*)より, $a_{2m-1} + c_{2m-1} + d_{2m-1} = 1$ であることに注意して,

$$\begin{aligned} a_{2m+1} &= a_{2m-1} \cdot 1 \cdot \frac{1}{3} + c_{2m-1} \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3} + d_{2m-1} \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3} \\ &= \frac{1}{3}a_{2m-1} + \frac{1}{6}(c_{2m-1} + d_{2m-1}) \\ &= \frac{1}{3}a_{2m-1} + \frac{1}{6}(1 - a_{2m-1}) \\ \therefore a_{2m+1} &= \frac{1}{6}a_{2m-1} + \frac{1}{6} \quad \therefore a_{2m+1} - \frac{1}{5} = \frac{1}{6}\left(a_{2m-1} - \frac{1}{5}\right) \end{aligned}$$

$\left\{a_{2m-1} - \frac{1}{5}\right\}$ は公比 $\frac{1}{6}$ の等比数列であり, $a_1 = 1$ であるから,

$$\begin{aligned} a_{2m-1} - \frac{1}{5} &= \left(a_1 - \frac{1}{5}\right)\left(\frac{1}{6}\right)^{m-1} = \frac{4}{5}\left(\frac{1}{6}\right)^{m-1} \\ \therefore a_{2m-1} &= \frac{1}{5} + \frac{4}{5}\left(\frac{1}{6}\right)^{m-1} \\ \therefore a_n &= \frac{1}{5} + \frac{4}{5}\left(\frac{1}{6}\right)^{\frac{n-1}{2}} \end{aligned}$$

である。

次に, P_n が B である確率 b_n を求める。(*)より, n が奇数のとき $b_n = 0$. n が偶数のとき, m を正の整数として $n=2m$ とおく。 P_{2m} が B となるのは,(iv) P_{2m-1} が A である。(v) P_{2m-1} が C であり, 線分 CB を選ぶ。(vi) P_{2m-1} が D であり, 線分 DB を選ぶ。

のいずれかの場合であるから,

$$\begin{aligned} b_{2m} &= a_{2m-1} \cdot 1 + c_{2m-1} \cdot \frac{1}{2} + d_{2m-1} \cdot \frac{1}{2} \\ &= a_{2m-1} + \frac{1}{2}(c_{2m-1} + d_{2m-1}) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
&= a_{2m-1} + \frac{1}{2}(1 - a_{2m-1}) \\
&= \frac{1}{2}a_{2m-1} + \frac{1}{2} \\
&= \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{5} + \frac{4}{5} \left(\frac{1}{6} \right)^{m-1} \right\} + \frac{1}{2} \\
&= \frac{3}{5} + \frac{2}{5} \left(\frac{1}{6} \right)^{m-1} \\
\therefore b_n &= \frac{3}{5} + \frac{2}{5} \left(\frac{1}{6} \right)^{\frac{n-2}{2}}
\end{aligned}$$

である。

以上から、求める確率は、

$$p_n = a_n + b_n = \begin{cases} \frac{1}{5} + \frac{4}{5} \left(\frac{1}{6} \right)^{\frac{n-1}{2}} & (n \text{ が奇数のとき}) \\ \frac{3}{5} + \frac{2}{5} \left(\frac{1}{6} \right)^{\frac{n-2}{2}} & (n \text{ が偶数のとき}) \end{cases}$$

である。

(2) 事象 X, Y を次のように定める。

X : P_n が A または B である

Y : P_1, P_2, \dots, P_n がいずれも E とならない

(ア) n が奇数のとき

$n=1$ のとき, $P(X \cap Y) = a_1 = 1$

n が 3 以上の奇数のとき, $n=2m-1 (m \geq 2)$ とおくと, $X \cap Y$ が起こるのは,

$P_1 = A, P_2 = B$, 続く 2 回の試行ごとに, 線分 BA, AB, または線分 BC, CB, または線分 BD, DB を選ぶことを $m-2$ 回繰り返し, 最後に線分 BA を選ぶ。

ときであるから、その確率は、

$$\begin{aligned}
P(X \cap Y) &= 1 \cdot \left(\frac{1}{3} \cdot 1 + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \right)^{m-2} \cdot \frac{1}{3} \\
&= \frac{1}{3} \left(\frac{2}{3} \right)^{m-2} = \frac{1}{3} \left(\frac{2}{3} \right)^{\frac{n-3}{2}}
\end{aligned}$$

(イ) n が偶数のとき

$n=2m (m \geq 1)$ とおくと, $X \cap Y$ が起こるのは,

$P_1 = A, P_2 = B$, 続く 2 回の試行ごとに, 線分 BA, AB, または線分 BC, CB, または線分 BD, DB を選ぶことを $m-1$ 回繰り返す。

ときであり、(1)の(iii)から、その確率は、

$$P(X \cap Y) = 1 \cdot \left(\frac{1}{3} \cdot 1 + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \right)^{m-1} = \left(\frac{2}{3} \right)^{m-1} = \left(\frac{2}{3} \right)^{\frac{n-2}{2}}$$

これは $n=2$ のときも正しい。

以上から、求める条件付き確率は、

$$q_n = \frac{P(X \cap Y)}{P(X)}$$

$$= \begin{cases} 1 & (n=1 のとき) \\ \frac{\frac{1}{3}\left(\frac{2}{3}\right)^{\frac{n-3}{2}}}{\frac{1}{5} + \frac{4}{5}\left(\frac{1}{6}\right)^{\frac{n-1}{2}}} = \frac{10 \cdot 2^{n-3}}{6^{\frac{n-1}{2}} + 4} & (n \text{ が } 3 \text{ 以上の奇数のとき}) \\ \frac{\left(\frac{2}{3}\right)^{\frac{n-2}{2}}}{\frac{3}{5} + \frac{2}{5}\left(\frac{1}{6}\right)^{\frac{n-2}{2}}} = \frac{5 \cdot 2^{n-2}}{3 \cdot 6^{\frac{n-2}{2}} + 2} & (n \text{ が偶数のとき}) \end{cases}$$

である。